

平成 20 年度再評価対象事業一覧表 (再評価実施後、一定期間(5~10年)が経過した時点で継続中の事業又は未着工の事業)  
 (対象：平成 15 年度再評価実施事業)

番号	項目	事業名 (路・河川名等)	事業目的	事業概要	事業の進捗状況	事業を巡る社会経済情勢等の変化	費用対効果の要因の変化	コスト縮減や代替案等の可能性	再評価理由	対応方針 (事業課)
	再評価 時点 H15	田手川 (田手川・三本松川・馬場川) 広域基幹河川改修事業  事業主体：県 事業地： 千代田町 神埼町 三田川町 東脊振村	流路是正、狭窄部解消を行い、治水安全度を向上し、流域の浸水被害の軽減及び排水機場建設により内水対策を図る。 (田手川) 計画流量 490m <sup>3</sup> /s 計画治水安全度 1/50	全体事業費：C=251億円 工期：S41～H23 改修延長：L=16,350m 計画流量： (田手川) 490m <sup>3</sup> /s 計画治水安全度： (田手川) 1/50 事業内容：掘削・築堤 護岸、排水機場2箇所樋管 7基、橋梁41基、堰19基	田手川については、国道34号下流は完成している。また、全体計画区間の用地買収は、ほぼ完了に近づいている。 三本松川については、国道385号下流について用地買収は完成しており、また改修についても概成している。 馬場川については、千代田町内は概成しているが、神埼町内については、不良工作物の改築を実施しているところである。また、用地補償についてはほぼ完了している。 橋梁29橋が完成。 (H14末進捗率 61%) (年平均進捗率 1.7%)	(過去の災害実績) H2.7 浸水戸数 487戸 農地浸水面積 3.390ha 内水被害が頻発し、国道385号の通行止めになるなど、被害が発生している。 (地域の状況) 近傍に吉野ヶ里歴史公園が整備中であり、H13春に一部開園した。 流域内において、宅地開発が行われている。	事業採択時と比較し、単価上昇等により事業費が増大したが、流域内の市街化の進展により、費用対効果の大きな変化はないと考えられる。 現在(B/C) 3.5	排水機場の天井クレーンの省略を行う等によりコスト縮減を図る。 土工事において、建設発生土の利用促進を行う等により、コスト縮減を図る。	再評価実施後 5年が経過	継続
	現時点 H20	事業地： 神埼市 吉野ヶ里町		前回評価時より事業費が増額となった。  全体事業費：C=307億円 工期：S41～H35 改修延長：L=16,350m 計画流量： (田手川) 490m <sup>3</sup> /s 計画治水安全度： (田手川) 1/50 事業内容：掘削・築堤 護岸、排水機場2箇所樋管 7基、橋梁41基、堰19基	田手川については、国道34号下流については完成している。また、H21でJR橋が完成する。用地補償については、ほぼ完了している。 三本松川については、国道385号下流について用地買収は完了しており、また改修についても概成している。 馬場川については、狭窄部の構造物3基や上流工区を残すのみとなっている。また、用地補償についてはほぼ完了している。 橋梁30橋が完成。 (H19末進捗率 63%) (年平均進捗率 1.5%)	(過去の災害実績) 同上  (地域の状況) ・流域内にて、宅地開発が行われ、市街化が進んでおり、浸水被害防止対策が急務である。	最新のマニュアルに基づき、費用対効果(B/C)を算出した。  一般資産被害額 農作物被害額 公共土木施設等被害額等 B=280,912百万円 総費用額 C=54,348百万円 現在(B/C) 5.2	土工事において、建設発生土の利用促進を行う等により、コスト縮減を図る。	再々評価実施 後5年が経過	昭和28年、平成2年等の洪水被害を軽減するため、流路是正、狭窄部解消を行い、治水安全度を向上し、地域住民の安心・安全を確保するためには、当事業の継続が必要である。
	理由等				・鋼材単価の高騰による工事費の増。 ・河床掘削土の運搬距離増による処分費増。 ・JR橋改築に伴う騒音振動対策工により工事期間が延長したことや、行財政改革等の予算縮減を受け年度事業費が減となったことによる工期延長。 ・平成19年度に浸水想定区域調査を実施し、平成20年度に洪水ハザードマップを作成中である。					

